ネットワーク連絡会　会議要旨

日　時：平成１８年３月２３日（木）午後６時～午後８時
会　場：しんじゅく多文化共生プラザ　多目的スペース
参加者：２１人

～開会挨拶～

区　：　本日は年度末のお忙しい中、ネットワーク連絡会にお集まりいただき誠にありがとうございます。

区　：　【配布資料の説明】

区　：　プラザの利用状況はオープン当初の９月は８００人台に留まりましたが、2月は１２４５人・５２ヶ国の方々にご利用いただきました。3月は１３００人を超える見込みで、日を追うごとに利用者も増えていく傾向にあります。2月は講座の開催はなかったものの、新潟の修学旅行生の見学や、福岡の高校の先生方の視察がありました。

区　：　配布資料の「新宿区における多文化共生の地域づくりに向けての報告書」と「しんじゅく多文化共生センター（仮称）に関する要望書」については、本日のネットワーク連絡会で配布してほしいとの依頼があったものです。

～自己紹介･団体紹介～

　外国人支援団体、日本語学習支援団体、町会、ボランティア等で活動している参加者の皆さんに自己紹介・団体紹介をしていただきました。

～意見交換～

区　：　先に回答いただいたアンケートの結果からネットワークの今後の進め方を探りたいと思います。

区　：　ネットワークで取り組みたい事業について、アンケートで回答が多かったのは情報交換、イベント、セミナーでした。情報交換については、メールなどを活用して情報を共有するのもいいと思います。イベントに関しては、具体的に何を実施するのかネットワークで決めていきたいと思います。セミナーに関しては、今までにも区主催の講座を開催してきましたが、文化紹介などのやわらかい講座も開催する必要があると思います。

区　：　次回以降どのような進め方がよいと思いますか。

A　：　ネットワークに参加している方々が実際にどのような持ち味・強みを持っているのかまだわからない。そのようななかでイベントのような継続性のない事業を実施しても結びつきは強まらないと思います。しかし、定期的に集まって情報交換するだけでは一歩も進みません。

　ひとつのアイディアとして、一人核になる人を選び、各団体の活動現場に行き、一緒に活動に参加しながら取材して体験レポートを配信するのはどうでしょうか。もちろん一人ではなく、興味がある人は一緒に参加すればいいと思います。そのような積み重ねが大切だと思います。

B　：　大久保小学校の場合、生徒の６割くらいが両親のどちらかが外国人という実態があります。昨年、大久保小学校で多文化防災訓練を実施したが、日本人でも外国人でも地震などの災害が怖いのは同じです。ネットワークで帰宅困難者を対象とした防災訓練を実施するのはどうでしょうか。都も区もネットワークも実績が積めるし、人集めをすることでネットワークのつながりを活かせると思います。

C　：　災害時の外国人への情報伝達は課題となっています。期間と労力は大きいがぜひ防災訓練を実施したいです。

D　：　ネットワークに参加している方々は困っている内容が様々であるし、そもそも活動の分野もばらばらです。活動団体で課題が見つかったら、ネットワークのなかで協力してくれる人を探せばよいと思います。私個人としては外国人に対する不動産の勉強会を実施していますが、ネットワークのなかでも小委員会のようなものをつくり、勉強会をする必要があるのではないでしょうか。

B　：　自分の持家の８割は外国人が入居しており、家主の立場からすると実際に被害を受けています。住宅での課題は９０日の短期滞在者をどうするかということだと思います。彼らは日本語のいらない世界でまわっている。

D　：　地域のなかで問題なく居住できるように、民間企業も含めて検討しています。

区　：　部会をつくって興味がある人が参加する形式もよいと思います。

A　：　ブログのようなものでよいのでネットワーク専用の掲示板を作るのもよいと思います。

区　：　具体的な活動ということが挙げられていますが、日本語支援の活動のなかで何かご提案がありますか。

E　：　学校に行っていない子どもが多く、様々な講座を開催しているが、参加者への呼びかけが難しいので協力してもらいたい。また、ネットワークに学校や保育園の人たちにも来て欲しい。

　防災訓練も重要だが、平常時の付き合いも重要になると思います。訓練なら助けてくれるが、本当に災害があった場合に周りの人が助けてくれるとは限りません。また、災害数ヵ月後を想定に入れて訓練するのもよいと思います。訓練のほかに楽しいこともセットにすれば、人も集まるのではないでしょうか。

B　：　夜間子どもを預かっている保育園もあります。未就学児については、自分の耳に入ってくれれば手を差し伸べられるが、情報が入ってこない。相談されれば協力したい。

区　：　子どもを対象とした日本語学習の支援を行なっている団体では、どのような子どもたちを受け入れているのですか？

F　：　学校に所属していない子どもについては、責任が取れないので区やプラザに相談します。それ以外の子どもは受け入れるが、勉強以外の問題が見えてきます。自分たちの責任の取れる範囲でどれだけ支援ができるのか、限界も見えてきたので生活の支援について皆さんの知恵をいただきたい。

区　：　防災、日本語支援、生活支援という課題が出ましたが、次の連絡会に何をするか案はありますか？

区　：　ホームページで掲示板を作成したいという話がありましたが、区でも予算を要求しています。ホームページ等の作成について何かご意見はありますか？

　また、小委員会で検討して全体に持ち帰り、同意を得るというかたちで運営してもよいでしょうか？

全員：　（同意）

G　：　ホームページやパンフレットを作成するときは、多言語で対応してもらいたい。

B　：　ネットワークのホームページは新宿区の公式ホームページから入れたほうが便利でよいと思う。

A　：　外国人問題は解決が困難な課題が多い。何もやらないでいても仕方がないし、長く続けていく必要があります。
　例えば、大久保小学校で親と子の運動会はできないでしょうか。

B　：　イベント等を多く企画しているが､親は生産世代なので参加してくれる人が少ない｡しかし、ゲーム的な要素を参加者は望んでいると思います。

A　：　防災訓練は遊び感覚で参加できるようなものがよいと思います。

財団：　帰宅困難者の防災訓練や復興訓練をネットワークでやるのは難しい｡地域規模で実施し、参加者を増やすことも大切です。

B　：　ネットワークで区・都・国といった行政を動かしていくような政策があってもいいと思います。行政を動かして一緒にやっていきたいです。

H　：　今までも防災訓練を実施しているが、地域ごとの訓練を継続して実施することが大切だと思います。

I　：　防災訓練を実施して、参加者が多いから成功というわけではありません。地域に住む人が協力して暮らせるきっかけにする必要があります。日本人も外国人もお互いが隣人であるという意識が大切だと思います。

J　：　防災訓練に学生を連れて行ったが、その学生たちは、短くて３ヶ月、長くて２年しか日本にいない学生でした。訓練に参加して、地域の人の顔を知ったことで喜んでいました。実際に顔が見えることが大切だと感じました。大きな防災訓練もよいが、地域に根差したことも続けていくべきだと思います。

E　：　ネットワークのメンバーと連絡を取りたいときにメーリングリストがあると便利だと思います。

Ａ　：　ネットワークメンバーに限定したブログもあると便利です。

区　：　それでは提案ですが、今日の連絡会で、防災訓練、教育支援というテーマが見えてきました。また、ホームページ、メーリングリストについても検討課題です。そこで、分科会を開催し、検討していきたいと思いますので、これらのテーマごとに文化国際課から声をかけさせていただきます。よろしいでしょうか？

全員：　（同意）